2023 年度 小委員会活動成果報告

（2024 年 2 月 8 日作成）

小委員会名	環境行動研究小委員会	**主 査 名**：林田 大作 **就任年月**：2022 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	建築計画委員会 （計画基礎運営委員会）	**委員長名**：清家 剛 **主 査 名**：日色 真帆
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 （箇条書き）	環境行動研究的視点から、人びとのふるまいと環境の関係、人びとによってつくられ、支えられ、守られている場所の質、社会つながり、建築・都市空間の計画のあり方などの分析・考察、ウィズ／アフターコロナ社会における諸課題の解決と未来社会に貢献しうる環境行動理論の構築。 **初年度**：「環境行動研究ワークブック作成 WG」の立ち上げ、環境行動研究関連の文献・情報源の整理とデータベース作成、研究手法の整理、国内外の見学会・研究会の実施。 **２年度**：見学会・研究会の実施、文献・情報源の整理、データベース作成、研究手法の整理、「環境行動のワークブック」の作成、シンポジウムまたは公開研究会の開催、海外発信、HP 等による研究成果の公表。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：無 主査：林田大作（畿央大学） 幹事：小松尚（名古屋大学）、藤田大輔（福井工業大学） 委員：橘弘志（実践女子大学）、水村容子（東洋大学）、岩佐明彦（法政大学）、伊藤俊介（東京電機大学）、山田あすか（東京電機大学）、垣野義典（東京理科大学）、小林健治（摂南大学）、三浦研（京都大学）、石井敏（東北工業大学）、熊澤貴之（茨城大学）、前田薫子（佐藤総合計画）	
設置 WG （WG 名：目的）	居心地の良いくらし研究 WG:「北欧流「ふつう」暮らしからよみとく環境デザイン（2018 年）」「まちの居場所 ささえる/まもる/そだてる/つなぐ（2019 年）」の成果に立脚した新たな課題の検討、現在および未来の建築計画・設計に有用な知見のまとめ 環境行動研究ワークブック作成 WG：環境行動研究小委員会（1996 年設置）におけるこれまでの研究成果の収集・整理、環境行動研究の成果・知見・背景・手法を楽しみながら学ぶためのワークブック（教材）の作成	
2023 年度予算	135,000 円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s17/

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム･セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	シンポジウム「ワークで学ぶ建築・都市の見方―環境行動学に基づく参加体験型教育手法―」 参加者数43名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	１．従来の建築計画学だけでは予測・対応できない人びとの環境構築行動、社会システムと人びとの暮らしの実態・実践・予測を含む理論の構築 ２．ウィズ／アフターコロナ社会における諸課題の解決、包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市及び人間居住のあり方を示す環境行動理論の構築

目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	「環境行動研究ワークブック作成 WG」にて「ワークで学ぶ建築・都市の見方―環境行動学に基づく参加体験型教育手法―」を刊行し、シンポジウムを行い、成果公表した。
委員会活動の問題点・課題	１．新型コロナウィルス 5 類移行後も、オンラインを活用しながら、適宜対面を導入し、委員会活動を継続した。 ２．「新しい生活様式」と生活の質（QoL）を「居心地」という視点から考察する手法を開発する必要がある。